

## 第2章 地域の概況

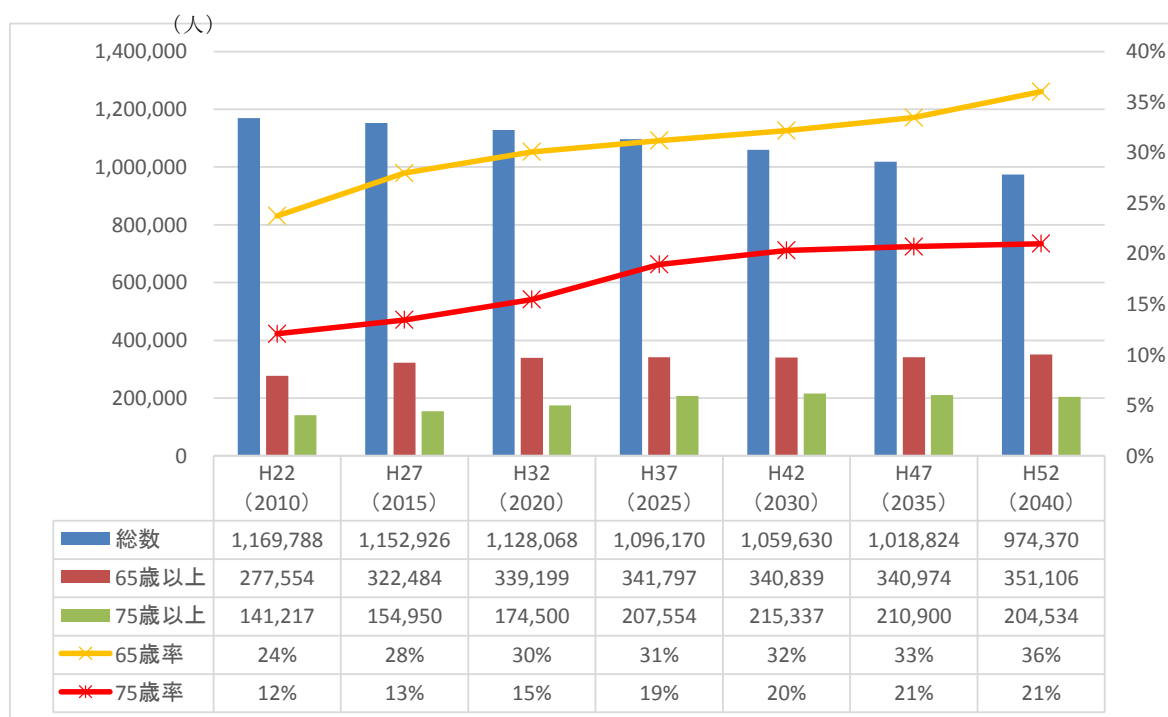
### 1 人口

#### (1) 総人口及び年齢別人口

平成28年10月1日現在の本県の人口は1,150,818人となっている。

将来人口推計では、総人口の減少が予測され、団塊の世代の方が全て75歳以上となる平成37年(2025年)には約109万6千人になると見込まれている。

また、同年には、65歳以上の人口は約34万2千人、75歳以上の人口は、約20万8千人に、65歳以上と75歳以上の人口の割合は、それぞれ31%、19%となる見込みとなっている。



資料：「日本の地域別将来人口推計」（国立社会保障・人口問題研究所(H25.3)）

#### (2) 地域別人口構造

地域別に人口構造をみると、加賀地区より能登地区で高齢化がより一層進んでおり、特に能登北部医療圏では老年人口の割合が45.7%と高く、石川中央医療圏(25.1%)の2倍近くとなっている。

## 第2章 地域の概況

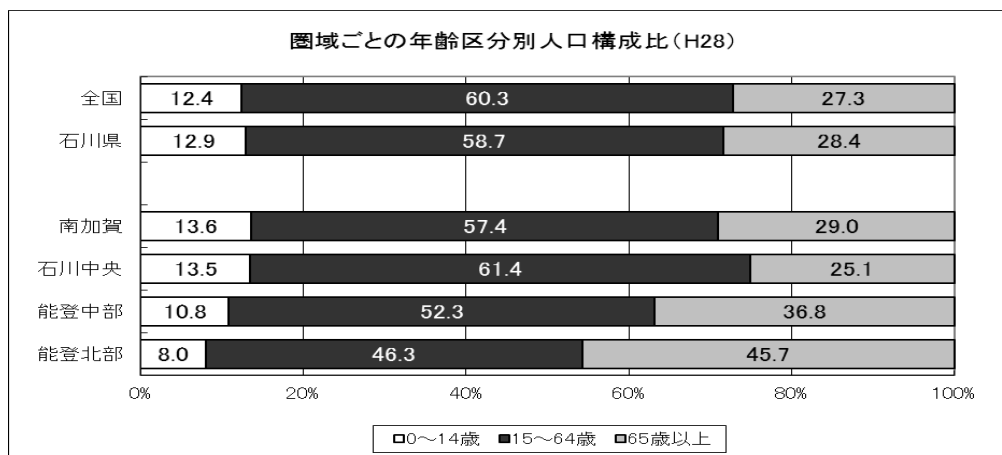
表 圏域・年齢区分別人口 (H28)

(単位：人、%)

区分 圏域	総数		0～14歳		15～64歳		65歳以上	
	人口	構成割合	人口	構成割合	人口	構成割合	人口	構成割合
南加賀	228,589	100.0	30,658	13.6	129,512	57.4	65,373	29.0
石川中央	729,224	100.0	96,792	13.5	440,149	61.4	180,388	25.1
能登中部	126,389	100.0	13,577	10.8	65,628	52.3	46,209	36.8
能登北部	66,616	100.0	5,297	8.0	30,818	46.3	30,447	45.7
県全体	1,150,818	100.0	146,324	12.9	666,107	58.7	322,417	28.4

資料：県推計人口（石川県県民交流課統計情報室）

（注）年齢不詳人口があるため、年齢区分別人口の合計は総数と一致しない。



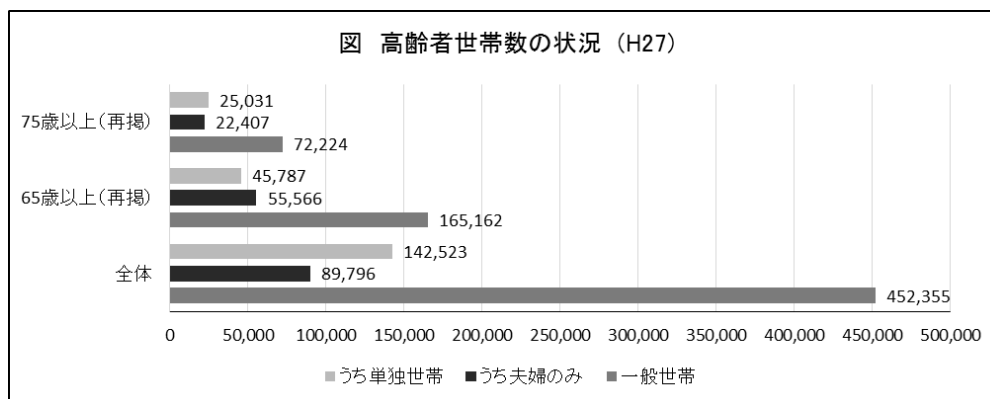
資料：平成28年推計人口（総務省統計局、石川県県民交流課統計情報室）

### (3) 高齢者世帯

平成27年における本県の一般世帯（452,355世帯）のうち世帯主が65歳以上の高齢者世帯は165,162世帯（36.5%）で、75歳以上の高齢者世帯は72,224世帯（16.0%）となっている。

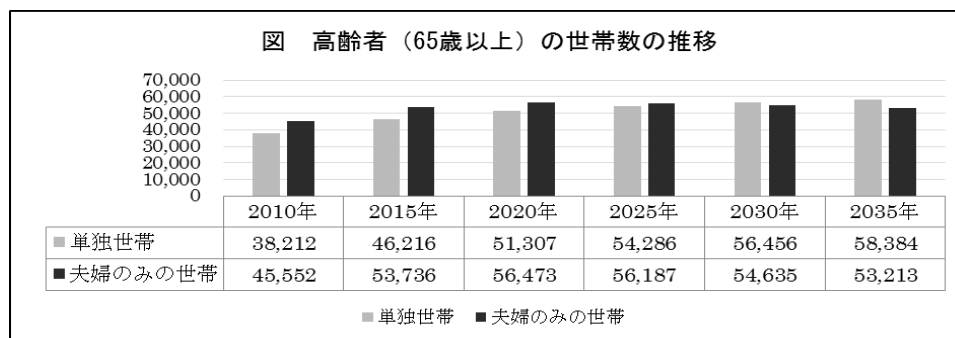
（注）国勢調査によれば、寮・寄宿舎や病院・療養所、社会施設などに入居している世帯を「施設等の世帯」、これを除いた世帯を「一般世帯」と区分している。

また、世帯主が65歳以上の高齢者世帯のうち、単独世帯は45,787世帯（27.7%）、夫婦のみ世帯は55,566世帯（33.6%）となっており、高齢者世帯の約6割が単独世帯又は夫婦のみの世帯となっている。



資料：「平成27年国勢調査」（総務省統計局）

今後、高齢者の単独世帯数は増加を続ける見込みで、平成42年（2030年）以降は単独世帯数が夫婦のみの世帯数を上回る見込みとなっている。



資料：「地域別将来人口推計」（国立社会保障・人口問題研究所（H25.3））

（注）2015年（H27）の世帯数は推計のため、前ページとは異なる

## 2 人口動態

### （1）出生

出生数は、衛生統計年報によれば、昭和48年をピークに年々減少を続け、平成22年には10,000人を下回り、平成27年は9,072人となっている。

出生率（人口千対）で見ると、昭和50年代以降は概ね全国平均並みで推移しており、平成27年は7.9となっている。

出生率を圏域別で見ると、南加賀及び石川中央は県平均より高く、能登中部と能登北部は県平均より低くなっている。

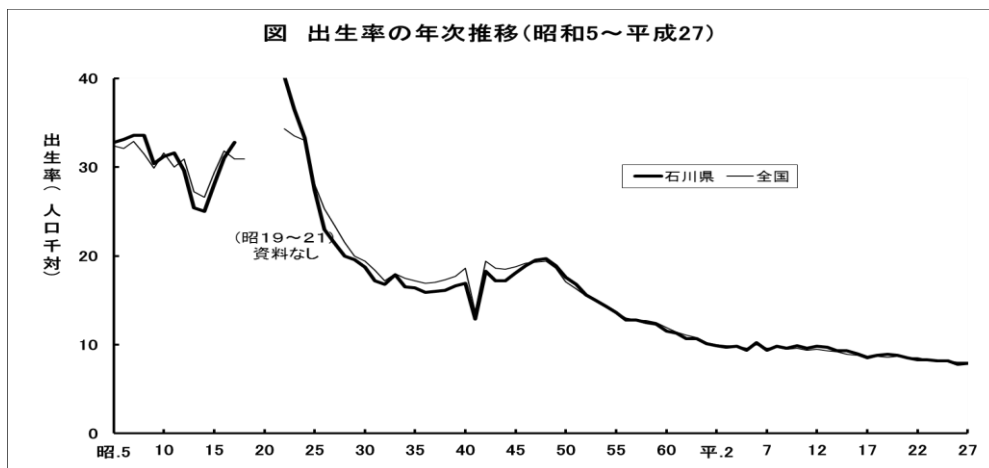
表 人口動態の推移

区分 年次	実数（人）						指標						
	出生	死亡	自然増加	乳児死亡	死産	周産期死亡	出生率 人口千対	死亡率 人口千対	自然増加率 人口千対	乳児死亡率 出生千対	死産率 出産千対	周産期死亡率 出産千対	
昭和40	16,605	8,445	8,160	346	1,165	468	16.9	8.6	8.3	20.8	65.6	28.2	
45	18,125	7,776	10,349	237	1,078	352	18.1	7.8	10.4	13.1	56.1	19.4	
50	18,817	7,706	11,111	186	901	284	17.6	7.2	10.4	9.9	45.7	15.1	
55	15,138	7,681	7,457	125	702	296	13.6	6.9	6.7	8.3	44.3	19.3	
60	13,256	7,657	5,599	66	557	173	11.5	6.6	4.9	5.0	40.3	12.9	
平成2	11,535	8,231	3,304	52	507	120	9.9	7.1	2.8	4.5	42.1	10.3	
7	11,093	9,174	1,919	56	311	70	9.4	7.8	1.6	5.0	27.3	6.3	
12	11,467	9,391	2,076	32	313	68	9.8	8.0	1.8	2.8	26.6	5.9	
17	10,049	10,376	-327	30	259	52	8.6	8.9	-0.3	3.0	25.1	5.2	
22	9,602	11,607	-2005	30	213	54	8.3	10.0	-1.7	3.1	21.7	5.6	
27	9,072	12,280	-3,208	13	188	47	7.9	10.7	-2.8	1.4	20.3	5.2	
平成27年	南加賀	1,831	2,418	-587	5	36	13	8.1	10.7	-2.6	2.7	19.3	7.1
	石川中央	6,208	6,558	-350	7	126	28	8.6	9.1	0.5	1.1	19.9	4.5
	能登中部	743	1,901	-1,158	1	21	5	5.8	14.9	-9.1	1.3	27.5	6.7
	能登北部	290	1,403	-1,113	-	5	1	4.3	20.7	-16.4	-	16.9	3.4

資料：「衛生統計年報」（石川県健康福祉部）、「人口動態統計」（厚生労働省）

（注）1 周産期死亡とは、妊娠22週（昭和50年までは28週）以後の死産と生後1週未満の早期新生児死亡を合わせたもの。

2 昭和50年までの周産期死亡率は、出生千対である。



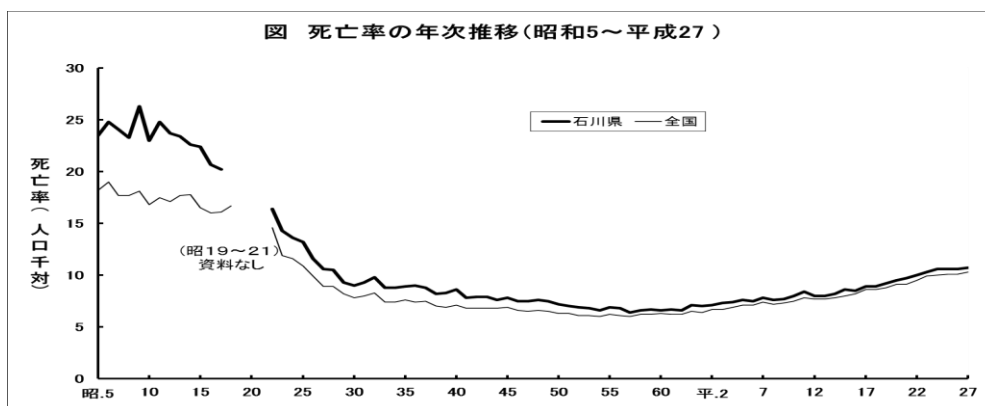
資料：「衛生統計年報」(石川県健康福祉部)

### (2) 死亡

死亡数は平成7年頃から9,000人台で推移してきたが、平成15年には10,000人を超え、平成27年は12,280人と、人口の高齢化に伴い増加傾向にある。

死亡率(人口千対)で見ると、戦前から全国平均を上回っており、平成27年では全国平均が10.3であるのに対し、本県は10.7である。

死亡率を圏域別にみると、老年人口比率に応じて石川中央が最も低く、能登北部が高くなっている。



資料：「衛生統計年報」(石川県健康福祉部)

### (3) 自然増加

平成27年の出生数から死亡数を差し引いた自然増加数は-3,208人と減少し、自然増加率(人口千対)は-2.8で全国平均(-2.3)を下回り、平成17年以降はマイナスが続いている。

自然増加率を圏域別にみると、石川中央はプラスであるが、能登北部、能登中部及び南加賀はマイナスである。

## (4) 乳児死亡

平成28年の乳児死亡数は19人で、平成24～28年の5年間平均の乳児死亡率（出生千対）では1.9となり、全国平均2.1を下回っている。

（注）乳児死亡とは、生後1年未満の死亡をいう。

## (5) 周産期死亡

平成28年の周産期死亡数は24人で、平成24～28年の5年間平均の周産期死亡率（出産千対）では3.6となり、全国平均の3.7を下回っている。

（注）周産期死亡とは、妊娠22週以後の死産と生後1週未満の早期新生児死亡を合わせたものをいう。

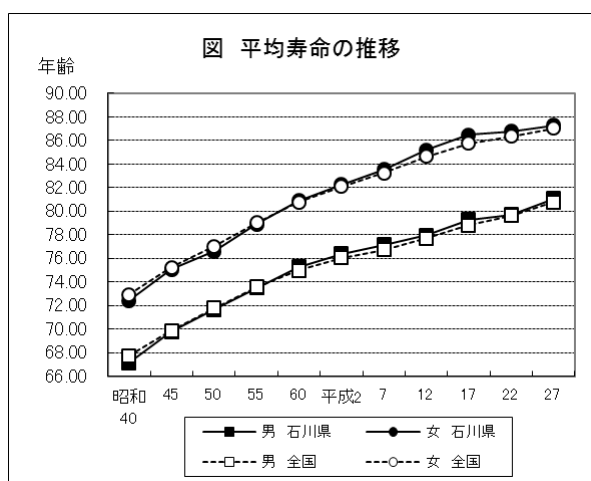
## (6) 平均寿命

全国の平均寿命をみると、明治・大正時代は40歳代であり、昭和22年に初めて男女とも50歳を超えた。その後順調に延びて、平成22年には男79.59歳、女86.35歳となっている。

本県の平均寿命は、昭和45年では男69.77歳、女75.04歳に、昭和60年では男75.28歳、女80.89歳に、平成27年では男81.04歳、女87.28歳となり、全国平均並となっている。

表 平均寿命の推移

区分 年次	石川県		全国	
	男	女	男	女
昭和40年	67.14	72.40	67.74	72.92
45年	69.77	75.04	69.84	75.23
50年	71.63	76.58	71.79	77.01
55年	73.48	78.88	73.57	79.00
60年	75.28	80.89	74.95	80.75
平成2年	76.38	82.24	76.04	82.07
7年	77.16	83.54	76.70	83.22
12年	77.96	85.18	77.71	84.62
17年	79.26	86.46	78.79	85.75
22年	79.71	86.75	79.59	86.35
27年	81.04	87.28	80.77	87.01



資料：昭和40年～昭和60年「地域別生命表」（厚生省）  
平成2年～平成27年「都道府県別生命表」（厚生省・厚生労働省）

### 3 主要死因の動向

死因をみると、戦前まで上位を占めていた肺炎、結核などの感染性疾患は、戦後は次第に後退し、悪性新生物(いわゆるがん)、心疾患、脳血管疾患が大部分を占めるようになった。これらの疾患の多くは生活習慣に関連するもの(いわゆる生活習慣病)といわれている。総死亡に占める悪性新生物、心疾患、脳血管疾患による死亡数の割合は、昭和30年には35.1%で、昭和60年には62.1%と30年間にほぼ倍増したが、平成28年には52.7%となっている。

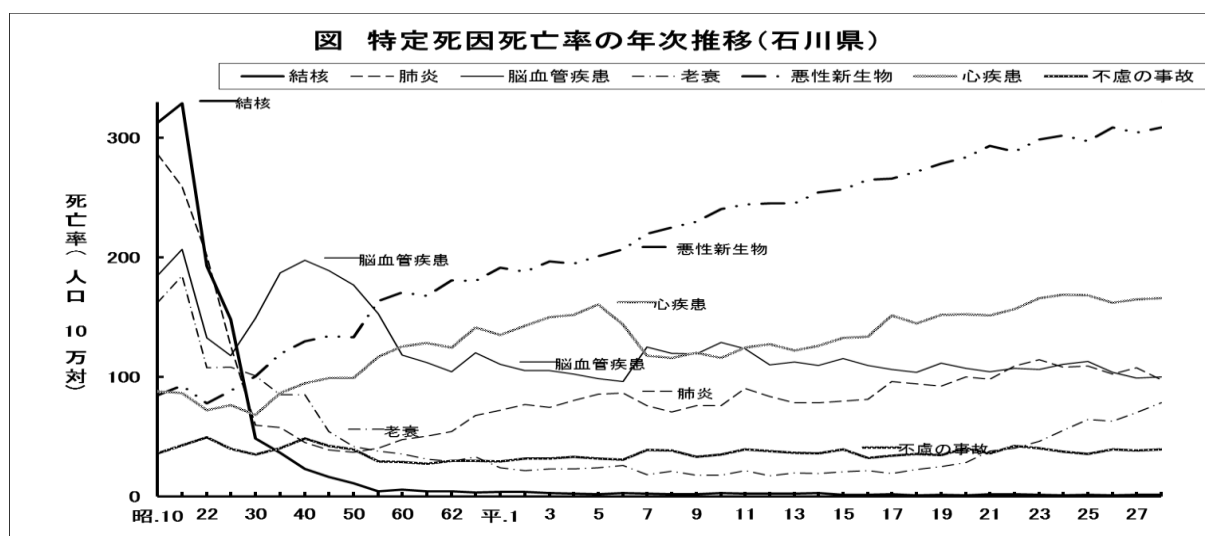
これらの疾患による死因の順位は、昭和54年まで1位脳血管疾患、2位悪性新生物、3位心疾患であったが、脳血管疾患は昭和40年代中頃から急速に減少し、平成28年は死因の第3位となっている。一方で、悪性新生物や心疾患による死亡が増加し、悪性新生物が死因の第1位、心疾患が第2位となっている。また、戦後後退した肺炎が近年増加傾向にあり、平成28年は死因の第4位となっている。

死因構造は、全国的な傾向と同様で、近年は脳血管疾患が抑えられつつある中で悪性新生物はさらに増加傾向をみせている。

表 主要死因別 死因順位・死亡率(人口10万対)

死因順位 (H28年)	死 因	H12年	H17年	H22年	H27年	H28年	H28年(圏域別)				28年(参)
		石川県					南加賀	石川中央	能登中部	能登北部	
第1位	悪性新生物	246.0	265.8	288.7	304.3	308.5	308.3	267.0	414.2	569.2	298.3
2	心疾患	127.9	151.6	156.7	164.7	165.9	159.1	137.9	228.3	380.0	158.4
3	脳血管疾患	110.6	106.1	107.3	98.9	99.9	96.0	82.4	148.5	215.0	87.4
4	肺炎	83.7	95.9	108.8	107.7	97.5	102.6	85.4	116.5	178.6	95.4
5	老衰	17.0	19.0	40.1	70.0	78.1	101.7	55.3	143.7	124.1	74.2
6	不慮の事故	37.8	34.2	42.3	38.1	39.4	40.4	31.2	63.9	80.2	30.6
7	腎不全	9.1	14.8	17.2	17.9	17.9	16.9	15.0	27.1	36.3	16.8
8	自殺	20.4	22.7	22.5	18.3	15.5	15.6	14.7	16.0	24.2	19.7
9	大動脈瘤及び解離	6.8	7.3	13.1	13.8	14.4	11.7	13.7	18.4	25.7	14.5
10	慢性閉塞性肺疾患	13.3	12.7	14.0	10.7	13.2	8.9	12.7	16.0	27.2	12.5
11	糖尿病	10.3	11.0	10.9	9.1	9.8	8.0	8.2	15.2	24.2	10.8

資料：「衛生統計年報」(石川県健康福祉部)、「人口動態統計」(厚生労働省)



資料：「衛生統計年報」(石川県健康福祉部)

## 4 受療の状況

## (1) 推計患者数、受療率

## ① 推計患者数

平成26年患者調査（厚生労働省）では、本県の推計患者数は72,000人（一日あたり）で、県民人口の6.2%にあたる。

入院－外来別にみると、入院が15,100人、外来が56,900人（うち歯科10,400人）である。

性別では、男31,600人（推計患者総数の約43.8%）、女40,500人（約56.2%）となっている。

年齢階級別では、入院患者総数のうち65歳以上の患者は74.7%、外来患者総数のうち65歳以上の患者は47.3%を占めている（年齢不詳は除く）。

施設の区分別では、入院患者総数のうち病院の患者は97.4%、外来患者総数のうち病院の患者は32.5%、一般診療所の患者は49.2%を占めている。

表 施設の種類・入院－外来・性・年齢階級別推計患者数(H26)

(単位：人)

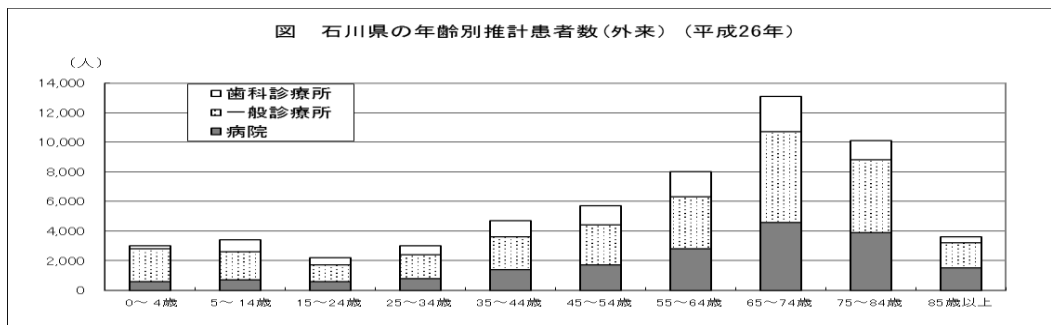
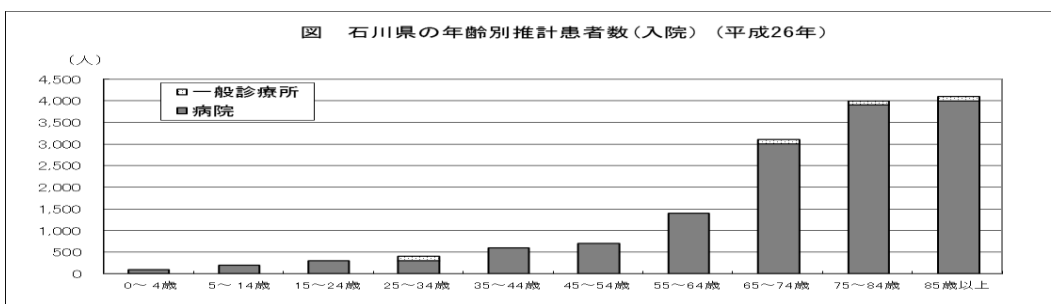
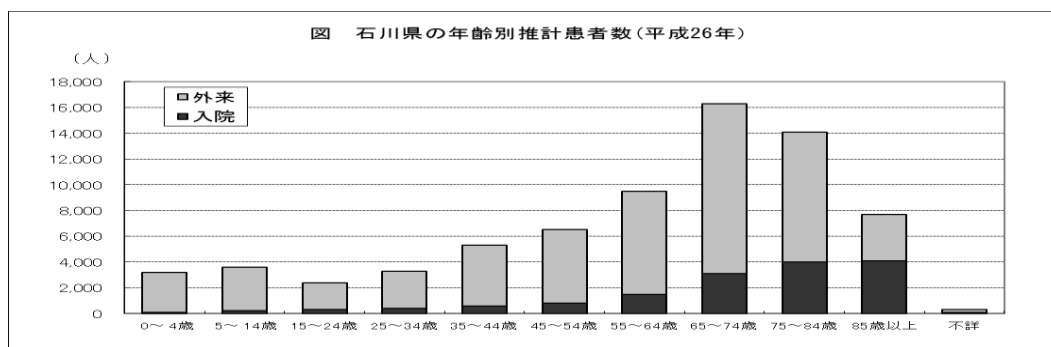
	総計	入院			外来			
		総数	病院	一般診療所	総数	病院	一般診療所	歯科診療所
総計	72,000	15,100	14,700	400	56,900	18,500	28,000	10,400
<性別>								
男	31,600	6,900	6,700	200	24,700	8,700	11,500	4,500
女	40,500	8,300	8,000	300	32,200	9,900	16,500	5,900
<年齢別>								
0～4歳	3,200	100	100	0	3,100	600	2,200	200
5～14歳	3,600	200	200	0	3,400	700	1,900	800
15～24歳	2,400	300	300	0	2,100	600	1,100	500
25～34歳	3,300	400	300	100	2,900	800	1,600	600
35～44歳	5,300	600	600	0	4,700	1,400	2,200	1,100
45～54歳	6,500	800	700	0	5,700	1,700	2,700	1,300
55～64歳	9,500	1,500	1,400	0	8,000	2,800	3,500	1,700
65～74歳	16,300	3,100	3,000	100	13,200	4,600	6,100	2,400
75～84歳	14,100	4,000	3,900	100	10,100	3,900	4,900	1,300
85歳以上	7,700	4,100	4,000	100	3,600	1,500	1,700	400
不詳	300	100	100	0	200	100	100	100
65歳以上	38,100	11,200	10,900	300	26,900	10,000	12,700	4,200
75歳以上	21,800	8,100	7,900	200	13,700	5,400	6,600	1,700

資料：「H26患者調査」（厚生労働省）

(注) 推計患者数であるため、各区分別推計患者数の合計は総計と一致しない。

患者調査においては、入院及び外来患者について、10月中旬の3日間のうち医療施設ごとに定める1日において、抽出調査を行い、患者数を推計している。

## 第2章 地域の概況



資料：「H26患者調査」(厚生労働省)

### ② 受療率

平成26年患者調査(厚生労働省)では、本県の受療率(人口10万人に対する患者数)は、入院が1,310(全国1,038)であり、外来が4,921(全国5,696)となっている。

性別では、男は入院が1,227、外来が4,405であり、女は入院が1,387、外来が5,406と、入院・外来ともに女が高くなっている。

年齢階級別にみると、入院では5~14歳が166と最も低く、以後年齢が高くなるにしたがって受療率も上昇傾向にあり、75歳以上では5,353と最も高くなっている。外来では15~24歳が1,814と最も低く、以後年齢が高くなるにしたがって受療率も上昇傾向にあり、75歳以上では9,096と最も高くなる。

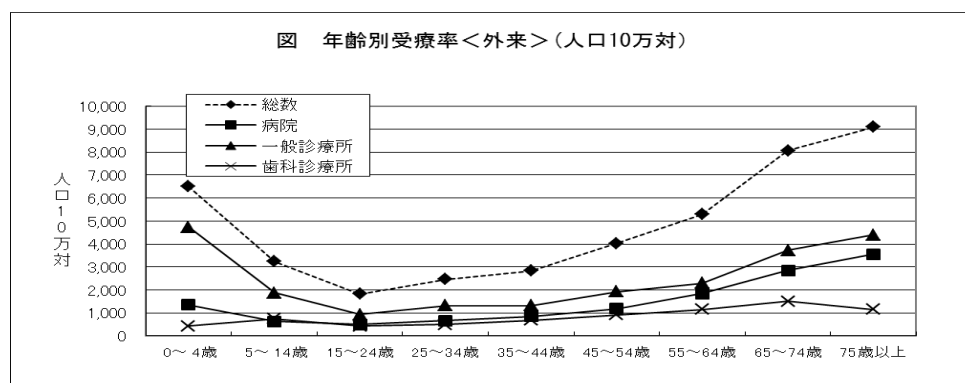
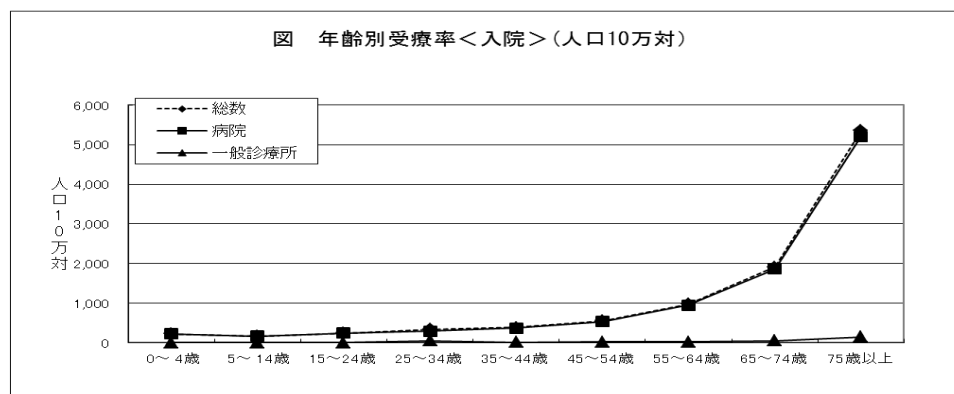
外来の中で、歯科診療所の受療率をみると、総数899であり、男808、女984と女が高くなっている。年齢階級別の受療率をみると、65~74歳が最も高くなっている。



表 入院－外来・性・年齢階級別受療率（人口10万対）

	入院				外来				
	全国	石川県			全国	石川県			
	総数	総数	病院	一般診療所	総数	総数	病院	一般診療所	歯科診療所
合計	1,038	1,310	1,271	38	5,696	4,921	1,604	2,418	899
<性別>									
男	977	1,227	1,198	29	5,066	4,405	1,546	2,051	808
女	1,095	1,387	1,340	47	6,292	5,406	1,659	2,763	984
<年齢別>									
0～4歳	345	227	227	-	6,762	6,501	1,347	4,733	422
5～14歳	92	166	166	-	3,503	3,235	627	1,862	747
15～24歳	141	241	241	-	2,091	1,814	482	919	413
25～34歳	270	338	289	49	2,911	2,460	663	1,311	486
35～44歳	318	385	370	15	3,334	2,831	842	1,318	671
45～54歳	505	549	532	18	4,225	4,018	1,177	1,927	914
55～64歳	930	973	951	21	5,984	5,287	1,843	2,295	1,149
65～74歳	1,568	1,916	1,866	50	9,455	8,070	2,851	3,718	1,500
75歳以上	4,205	5,353	5,209	144	11,906	9,096	3,561	4,397	1,138
65歳以上	2,840	3,580	3,485	95	10,637	8,590	3,203	4,058	1,330
70歳以上	3,412	4,363	4,241	122	11,530	9,161	3,478	4,371	1,313

資料：「H26患者調査」（厚生労働省）



資料：「H26患者調査」（厚生労働省）

## （2） 受療動向

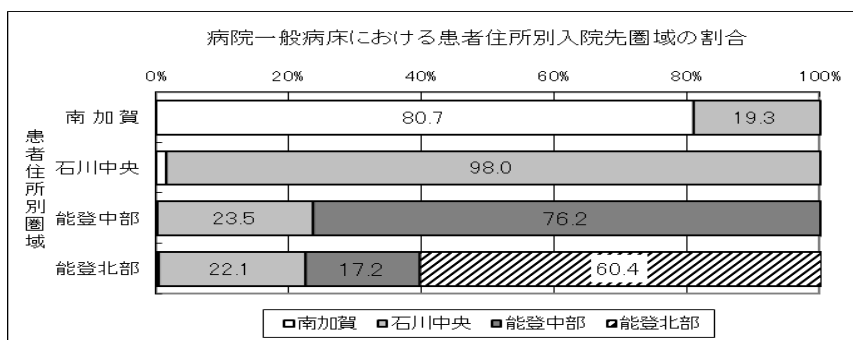
地元受診率（患者がそれぞれの住所地と同じ圏域内の医療施設で受療している割合）を病院の一般病床への入院患者について圏域別にみると、南加賀は80.7%、石川中央は98.0%、能登中部は76.2%、能登北部は60.4%となっている。病院の療養病床では、南加賀は90.0%、石川中央は98.5%、能登中部は48.8%、能登北部は74.8%となっている。

## 第2章 地域の概況

表 病院の一般病床入院患者の受療動向  
 <患者の住所地からみた構成割合> (単位：%)

施設所在地 患者の住所地	総数	南加賀	石川中央	能登中部	能登北部
総数	100.0	17.6	63.4	13.9	5.2
南加賀	100.0	80.7	19.3	0.0	0.0
石川中央	100.0	1.6	98.0	0.4	0.0
能登中部	100.0	0.2	23.5	76.2	0.0
能登北部	100.0	0.3	22.1	17.2	60.4

資料：「石川県入院患者1日調査（H28）」（石川県健康福祉部）

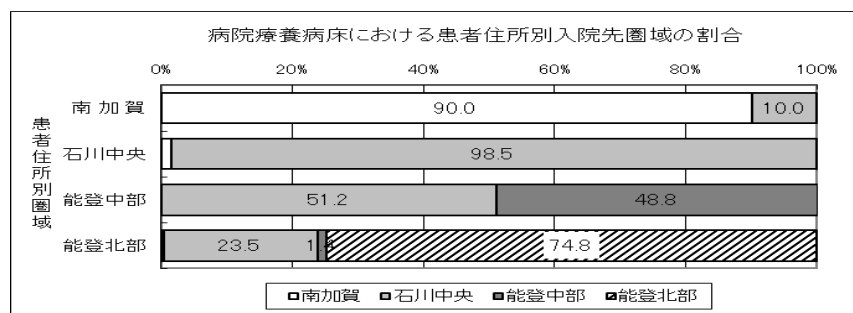


資料：「石川県入院患者1日調査（H28）」（石川県健康福祉部）

表 病院の療養病床入院患者の受療動向  
 <患者の住所地からみた構成割合> (単位：%)

施設所在地 患者の住所地	総数	南加賀	石川中央	能登中部	能登北部
総数	100.0	17.3	67.0	10.4	5.4
南加賀	100.0	90.0	10.0	0.0	0.0
石川中央	100.0	1.5	98.5	0.1	0.0
能登中部	100.0	0.0	51.2	48.8	0.0
能登北部	100.0	0.3	23.5	1.4	74.8

資料：「石川県入院患者1日調査（H28）」（石川県健康福祉部）



資料：「石川県入院患者1日調査（H28）」（石川県健康福祉部）

### (3) 傷病の状況

#### ① 傷病分類別推計患者数

平成26年患者調査（厚生労働省）によると、本県の傷病分類別の推計患者数は、1位 消化器系の疾患が10,400人（患者総数の14.4%）と最も多く、2位 循環器系の疾患8,500人（同11.8%）、3位 筋骨格系及び結合組織の疾患8,000人（同11.1%）の順となっている。

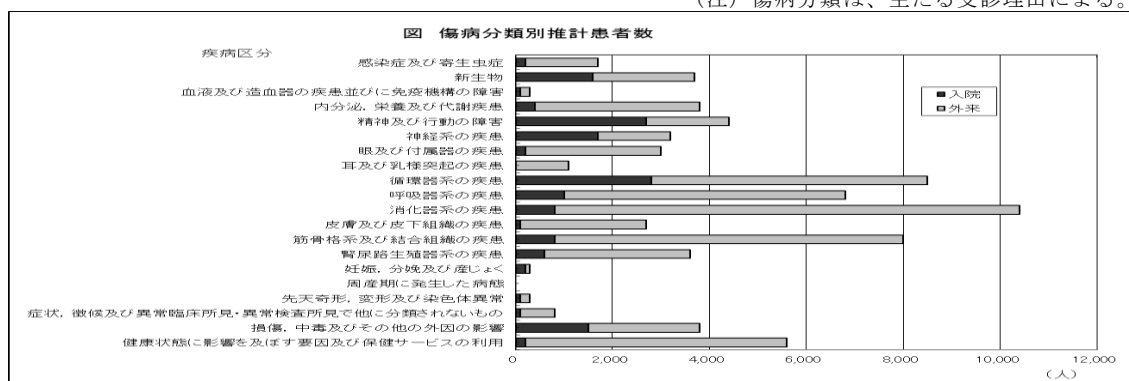
また、入院一外来別にみると、入院では1位 循環器系の疾患2,800人（入院患者

総数の18.5%)、2位 精神及び行動の障害2,700人(同17.9%)、3位 神経系の疾患1,700人(同11.3%)であり、外来では1位 消化器系の疾患9,600人(外来患者総数の16.9%)、2位 筋骨格系及び結合組織の疾患7,200人(同12.7%)、3位 呼吸器系の疾患5,800人(同10.2%)となっている。

表 入院－外来・傷病分類別推計患者数と構成割合(H26)

	推計患者数(人)			構成割合(%)		
	総数	入院	外来	総数	入院	外来
総数	72,000	15,100	56,900	100.0	100.0	100.0
I 感染症及び寄生虫症	1,700	200	1,500	2.4	1.3	2.6
II 新生物	3,700	1,600	2,100	5.1	10.6	3.7
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	300	100	200	0.4	0.7	0.4
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	3,800	400	3,400	5.3	2.6	6.0
V 精神及び行動の障害	4,400	2,700	1,700	6.1	17.9	3.0
VI 神経系の疾患	3,200	1,700	1,500	4.4	11.3	2.6
VII 眼及び付属器の疾患	3,000	200	2,800	4.2	1.3	4.9
VIII 耳及び乳様突起の疾患	1,100	0	1,100	1.5	0.0	1.9
IX 循環器系の疾患	8,500	2,800	5,700	11.8	18.5	10.0
X 呼吸器系の疾患	6,800	1,000	5,800	9.4	6.6	10.2
X I 消化器系の疾患	10,400	800	9,600	14.4	5.3	16.9
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	2,700	100	2,600	3.8	0.7	4.6
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	8,000	800	7,200	11.1	5.3	12.7
X IV 泌尿路生殖器系の疾患	3,600	600	3,000	5.0	4.0	5.3
X V 妊娠、分娩及び産じょく	300	200	100	0.4	1.3	0.2
X VI 周産期に発生した病態	0	0	0	0.0	0.0	0.0
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	300	100	200	0.4	0.7	0.4
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	800	100	700	1.1	0.7	1.2
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	3,800	1,500	2,300	5.3	9.9	4.0
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	5,600	200	5,400	7.8	1.3	9.5

資料：「H26患者調査」(厚生労働省)  
 (注) 傷病分類は、主たる受診理由による。



資料：「H26患者調査」(厚生労働省)

② 傷病分類別受療率

平成26年患者調査(厚生労働省)によると、本県の傷病分類別の入院受療率は循環器系の疾患243が最も高く、次いで精神及び行動の障害231、神経系の疾患148の順となっている。全国の傷病分類別の入院受療率と比較すると、循環器系の疾患(全

## 第2章 地域の概況

国189)、精神及び行動の障害(全国209)、神経系の疾患(全国96)と本県の方がいずれも高い傾向にある。

傷病分類別の外来受療率では、消化器系の疾患835が最も高く、次いで筋骨格系及び結合組織の疾患625、呼吸器系の疾患506の順となっており、全国との比較では、いずれも本県の方が低い傾向にある。

表 入院－外来・傷病分類別受療率(人口10万対) (H26)

	入院				外来				
	全国	石川県			全国	石川県			
	総数	総数	病院	一般診療所	総数	総数	病院	一般診療所	歯科診療所
総数	1,038	1,310	1,271	38	5,696	4,921	1,604	2,418	899
I 感染症及び寄生虫症	16	21	20	1	136	129	43	86	-
II 新生物	114	140	138	2	182	179	152	27	-
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5	4	4	-	17	14	7	8	-
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	26	38	38	-	344	298	129	169	-
V 精神及び行動の障害	209	231	230	1	203	148	118	31	-
VI 神経系の疾患	96	148	147	1	136	127	74	53	-
VII 眼及び付属器の疾患	9	13	10	3	266	245	66	178	-
VIII 耳及び乳様突起の疾患	2	3	3	-	79	93	14	80	-
IX 循環器系の疾患	189	243	243	-	734	495	199	295	-
X 呼吸器系の疾患	71	87	87	-	526	506	92	414	-
X I 消化器系の疾患	52	67	66	1	1,031	835	98	72	665
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	9	10	10	-	226	223	54	170	-
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	55	73	62	11	691	625	199	426	-
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	37	51	47	4	223	255	134	122	-
X V 妊娠、分娩及び産じょく	15	13	10	3	11	7	3	4	-
X VI 周産期に発生した病態	5	1	1	-	2	2	2	-	-
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	5	7	7	-	11	14	10	4	-
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	13	12	12	-	61	65	42	23	-
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	103	133	122	11	241	201	92	107	1
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	8	14	12	2	576	468	82	153	233

資料：「H26患者調査」(厚生労働省)

(注1) 傷病分類は、主たる受診理由による。

## 5 医療提供施設等の状況

### (1) 病院

#### ① 施設数

平成28年医療施設調査(厚生労働省)によると、本県の病院数は95施設(平成28年10月1日現在)で、人口10万人あたりの施設数は8.3施設であり、全国平均6.7施設を上回っている。

病院総数のうち13施設が精神科病院であり、一般病院は82施設である。

病院数を圏域別にみると、南加賀21施設、石川中央58施設、能登中部11施設、能登北部5施設となっている。

主な診療科目（重複計上）は、内科86施設（病院総数の88.7%）が最も多く、次いでリハビリテーション科、外科、整形外科の順となっている。

また、高度医療の提供、開発、研修を行う特定機能病院は、県内では、金沢大学附属病院、金沢医科大学病院の2病院がある。

## ② 病床数

平成28年医療施設調査（厚生労働省）によると、本県の許可病床数は18,212床で、人口10万人対の病床数は1,582.3床であり、減少傾向にあるものの、全国平均の1,229.8床を大きく上回っている。

表 病院の施設及び病床数の年次推移（石川県、実数）

年次	区分	実数							
		施設数	病床数（床）						
			総数	精神	感染症	結核	療養	一般	
平成23		101	19,060	3,817	18	92	4,669	10,464	
24		100	18,880	3,817	18	92	4,524	10,429	
25		98	18,735	3,816	18	92	4,388	10,421	
26		97	18,468	3,790	18	92	4,388	10,180	
27		97	18,392	3,790	18	92	4,342	10,150	
28		95	18,212	3,790	18	92	4,252	10,060	
圏域別	平成28年	南加賀	21	3,063	612	4	10	672	1,765
		石川中央	58	12,441	2,921	6	25	3,002	6,487
		能登中部	11	1,914	257	4	50	317	1,286
		能登北部	5	794	-	4	7	261	522

資料：「医療施設調査」（厚生労働省）

表 病院の施設及び病床数の年次推移（石川県、人口10万対）

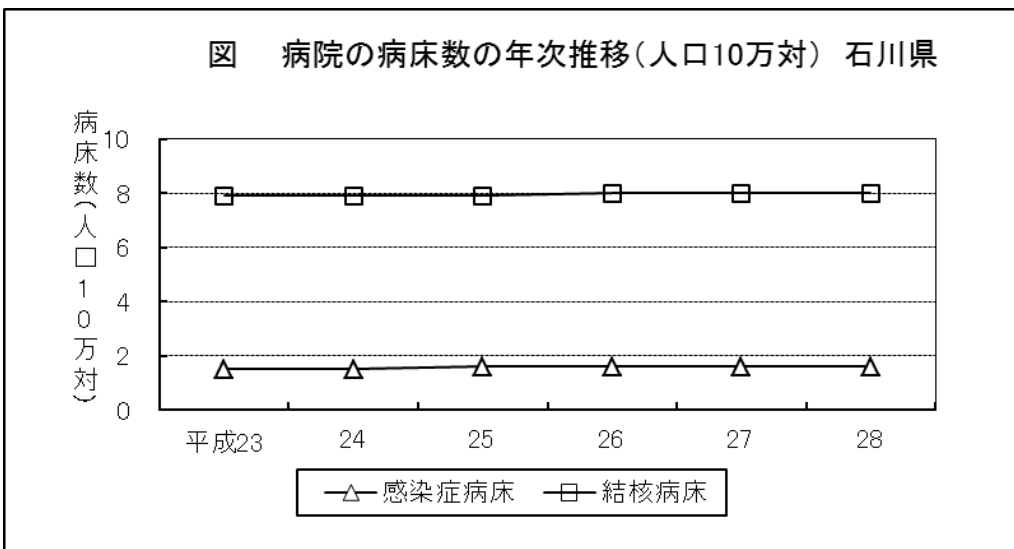
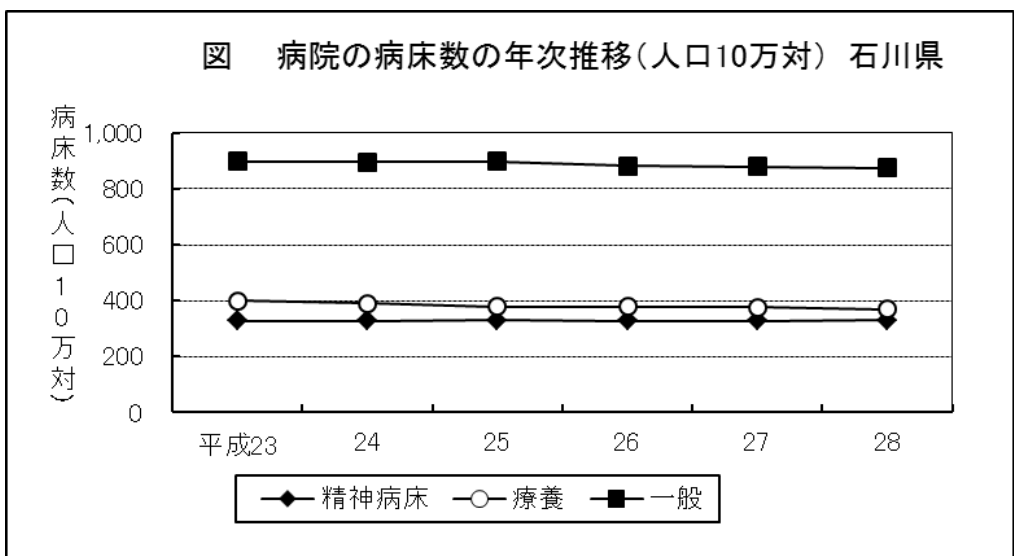
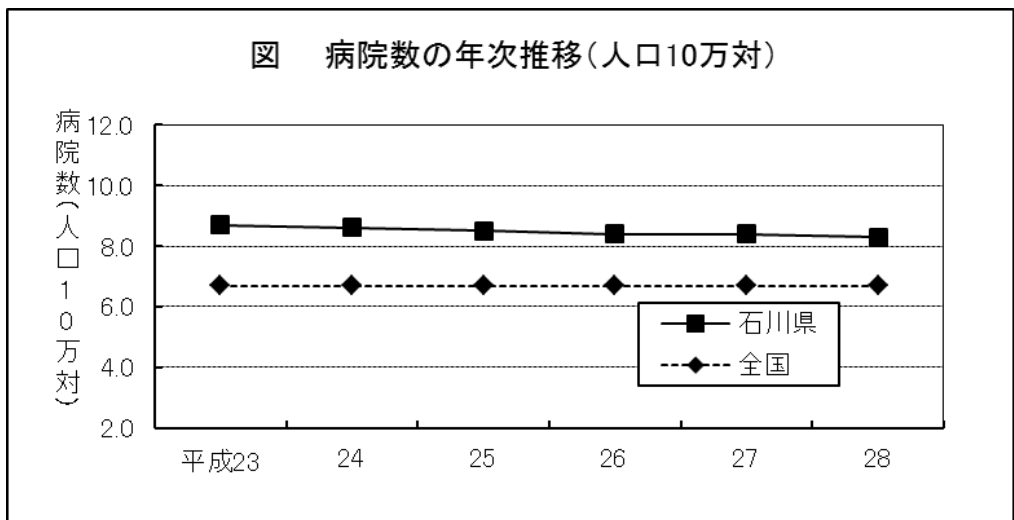
年次	区分	人口10万対（石川県）							
		施設数	病床数（床）						
			総数	精神	感染症	結核	療養	一般	
平成23		8.7	1,634.6	327.4	1.5	7.9	400.4	897.4	
24		8.6	1,623.4	328.2	1.5	7.9	389.0	896.7	
25		8.5	1,616.5	329.2	1.6	7.9	378.6	899.1	
26		8.4	1,597.6	327.9	1.6	8.0	379.6	880.6	
27		8.4	1,593.7	328.4	1.6	8.0	376.3	879.5	
28		8.3	1,582.3	329.3	1.6	8.0	369.4	874.0	
圏域別	平成28年	南加賀	9.2	1,340.0	267.7	1.7	4.4	294.0	772.1
		石川中央	8.0	1,706.1	400.6	0.8	3.4	411.7	889.6
		能登中部	8.7	1,514.4	203.3	3.2	39.6	250.8	1017.5
		能登北部	7.5	1,191.9	-	6.0	10.5	391.8	783.6

資料：「医療施設調査」（厚生労働省）

表 病院の施設及び病床数の年次推移（全国、人口10万対）

年次	区分	人口10万対（全国）						
		施設数	病床数（床）					
			総数	精神	感染症	結核	療養	一般
平成23		6.7	1,238.7	269.2	1.4	6.0	258.3	703.7
24		6.7	1,237.7	268.4	1.4	5.7	257.9	704.4
25		6.7	1,236.3	266.9	1.4	5.2	257.8	704.9
26		6.7	1,234.0	266.1	1.4	4.7	258.2	703.6
27		6.7	1,232.1	264.6	1.4	5.2	257.8	703.4
28		6.7	1,229.8	263.3	1.5	4.2	258.5	702.3

資料：「医療施設調査」（厚生労働省）



資料：「医療施設調査」(厚生労働省)

表 病院の主な診療科目別施設数と施設総数に対する割合（重複計上）  
(H26.10.1)

病院	全県	
	施設数	割合
病院総数	97	100.0
内科	86	88.7
呼吸器内科	29	29.9
循環器内科	44	45.4
消化器内科(胃腸内科)	33	34.0
腎臓内科	9	9.3
神経内科	24	24.7
糖尿病内科(代謝内科)	10	10.3
血液内科	4	4.1
皮膚科	42	43.3
アレルギー科	4	4.1
リウマチ科	12	12.4
感染症内科	0	-
小児科	39	40.2
精神科	32	33.0
心療内科	4	4.1
外科	56	57.7
呼吸器外科	12	12.4
心臓血管外科	14	14.4
乳腺外科	4	4.1
気管食道外科	1	1.0
消化器外科(胃腸外科)	20	20.6
泌尿器科	32	33.0
肛門外科	13	13.4
脳神経外科	31	32.0
整形外科	55	56.7
形成外科	13	13.4
美容外科	4	4.1
眼科	38	39.2
耳鼻いんこう科	25	25.8
小児外科	6	6.2
産婦人科	23	23.7
産科	2	2.1
婦人科	10	10.3
リハビリテーション科	60	61.9
放射線科	37	38.1
麻酔科	25	25.8
病理診断科	8	8.2
臨床検査科	0	-
救急科	0	-
歯科	13	13.4
矯正歯科	2	2.1
小児歯科	1	1.0
歯科口腔外科	9	9.3

資料：「H26 医療施設調査」（厚生労働省）

### ③ 病床利用率

平成28年病院報告(厚生労働省)によると、本県の一般病床に係る病床利用率は近年では70%台後半で推移しており、平成28年は77.3%（全国75.2%）であった。

療養病床に係る病床利用率は近年では90%前後で推移しており、平成28年は86.7%（全国88.2%）であった。

## 第2章 地域の概況

精神病床に係る利用率は、近年は90%前後で推移しており、平成28年は87.8%（全国86.2%）であった。

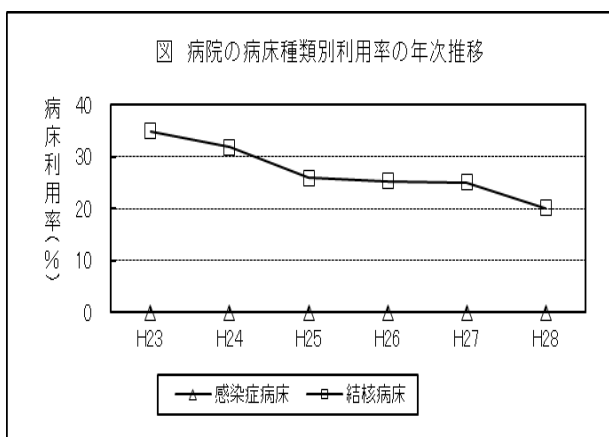
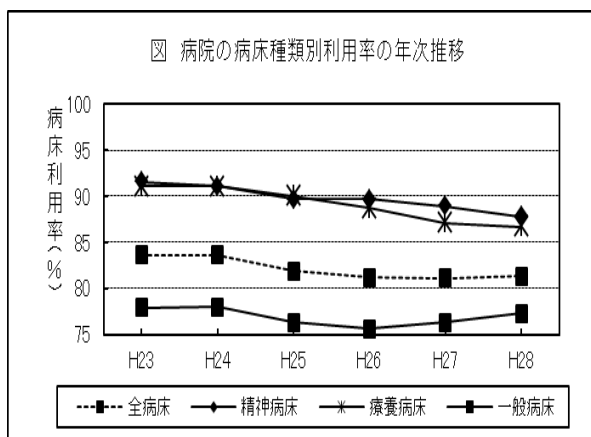
結核病床に係る利用率は、平成28年には20.1%（全国34.5%）であった。

感染症病床については、従来より病床利用率が低い状況となっている。

表 病院の病床種類別利用率の年次推移

	H23	H24	H25	H26	H27	H28
全病床	83.6	83.6	81.9	81.2	81.1	81.3
精神病床	91.6	91.1	89.7	89.7	88.9	87.8
感染症病床	-	-	-	-	-	-
結核病床	34.9	31.9	25.9	25.3	25.0	20.1
療養病床	91.1	91.1	90.0	88.7	87.1	86.7
一般病床	77.9	78.0	76.3	75.6	76.3	77.3

資料：「病院報告」（厚生労働省）



資料：「病院報告」（厚生労働省）

### ④ 平均在院日数

平成28年病院報告（厚生労働省）によると、本県の全病床の平均在院日数は32.0日（全国28.5日）で、平成23年の36.5日と比べ短縮している。圏域別にみると、南加賀が32.0日、石川中央が32.7日、能登中部が31.5日、能登北部が24.2日となっている。

平成28年の一般病床については17.8日（全国16.2日）で、平成23年の20.1日と比べ短縮している。

また、平成28年の精神病床については274.2日（全国269.9日）、療養病床については188.4日（全国152.2日）、結核病床については80.1日（全国66.3日）と長期にわたっているが、いずれも平成23年と比べ短くなっている。

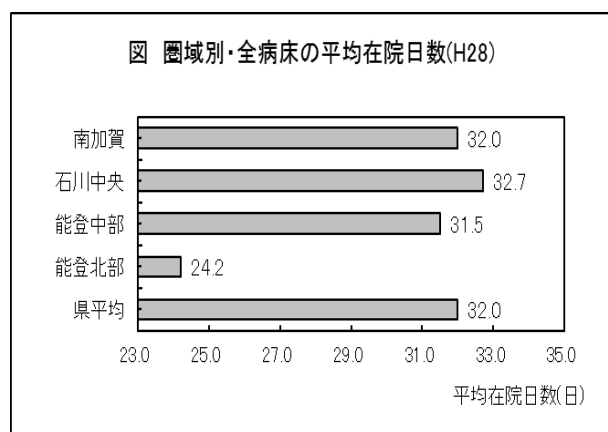
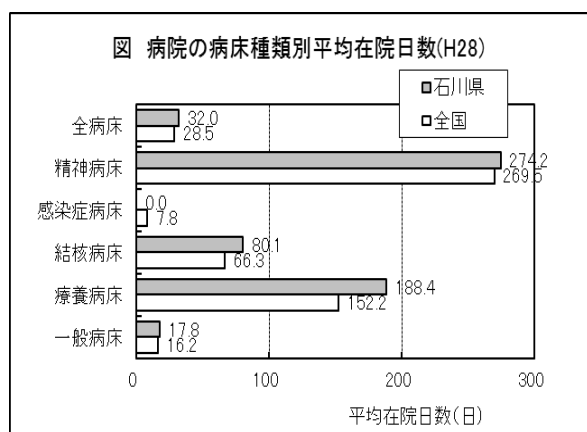


表 病院の病床種類別平均在院日数の年次推移

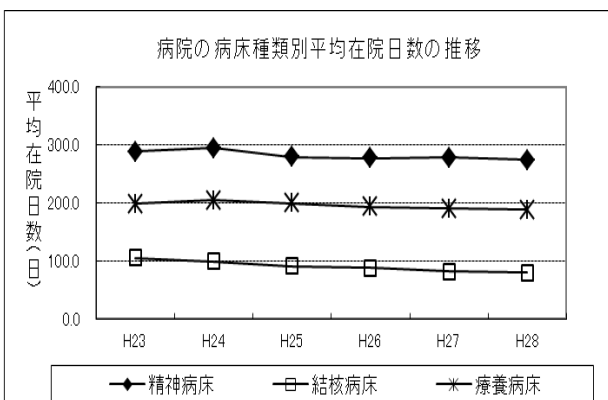
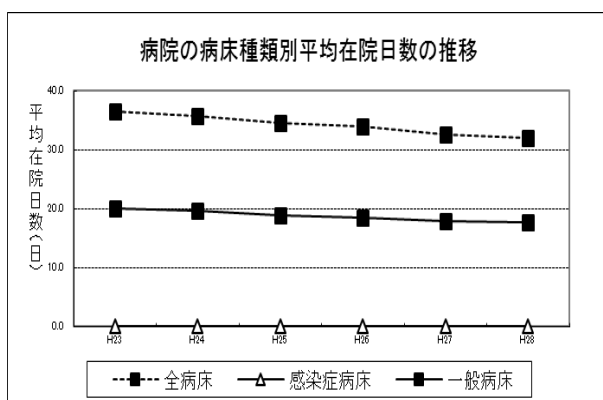
(単位：日)

	H23	H24	H25	H26	H27	H28
全病床	36.5	35.8	34.5	33.9	32.7	32.0
精神病床	289.1	295.1	279.9	277.5	277.9	274.2
感染症病床	—	—	—	—	—	—
結核病床	105.7	99.5	91.6	88.8	82.6	80.1
療養病床	199.0	204.4	200.0	193.6	190.7	188.4
一般病床	20.1	19.6	18.9	18.6	18.0	17.8

資料：「病院報告」(厚生労働省)



資料：「H28病院報告」(厚生労働省)



資料：「病院報告」(厚生労働省)

## (2) 一般診療所

平成28年医療施設調査(厚生労働省)によると、本県の一般診療所数は872施設で、人口10万人対の施設数は75.8施設であり、全国平均の80.0施設を下回っているが、県内ほぼ全圏域にわたって分布している。

このうち有床診療所は67施設であり、その病床数は890床、人口10万人あたり77.3床となり、全国平均の81.5床を下回っている。

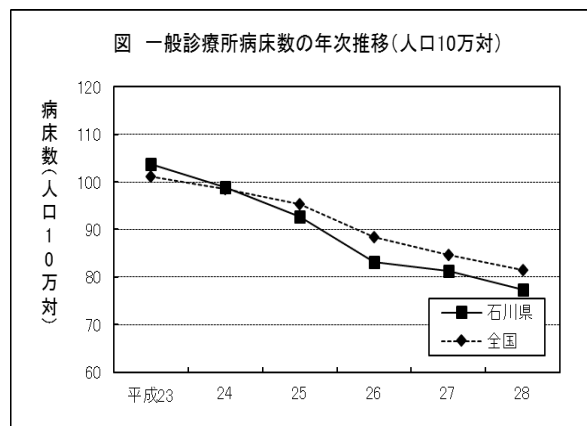
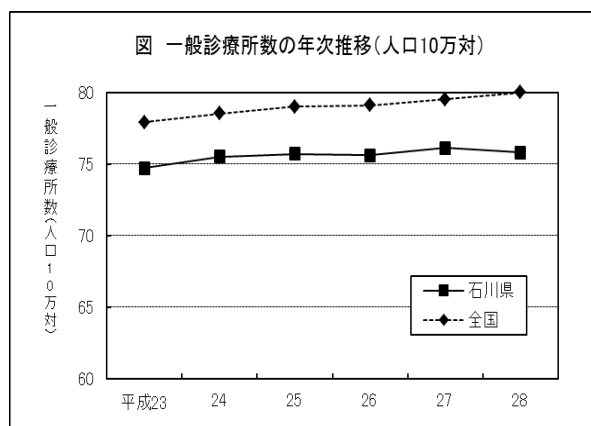
また、平成26年度医療施設調査(厚生労働省)によると、主な診療科目(重複計上)は、内科579施設(一般診療所総数の66.2%)が最も多く、次いで消化器内科(胃腸内科)、小児科の順となっている。

第2章 地域の概況

表 一般診療所の施設及び病床数の年次推移（石川県、実数）

区分		実数			人口10万対		全国（人口10万対）	
		施設数	(再掲)有床診療所数	病床数	施設数	病床数	施設数	病床数
平成23		871	91	1,209	74.7	103.7	77.9	101.2
24		878	86	1,149	75.5	98.8	78.5	98.5
25		877	80	1,074	75.7	92.7	79.0	95.3
26		874	72	962	75.6	83.2	79.1	88.4
27		878	71	937	76.1	81.2	79.5	84.7
28		872	67	890	75.8	77.3	80.0	81.5
圏域別	平成28年	南加賀	153	14	174	66.9	76.1	
		石川中央	583	45	587	79.9	80.5	
		能登中部	81	7	125	64.1	98.9	
		能登北部	55	1	4	82.6	6.0	

資料：「医療施設調査」（厚生労働省）



資料：「医療施設調査」（厚生労働省）

表 一般診療所の主な診療科目別施設数と施設総数に対する割合（重複計上）（H26.10.1）

一般診療所	全県		一般診療所	全県	
	施設数	割合		施設数	割合
一般診療所総数	874	100.0	泌尿器科	19	2.2
内科	579	66.2	肛門外科	43	4.9
呼吸器内科	75	8.6	脳神経外科	19	2.2
循環器内科	123	14.1	整形外科	102	11.7
消化器内科(胃腸内科)	167	19.1	形成外科	18	2.1
腎臓内科	13	1.5	美容外科	15	1.7
神経内科	34	3.9	眼科	65	7.4
糖尿病内科(代謝内科)	23	2.6	耳鼻いんこう科	43	4.9
血液内科	4	0.5	小児外科	3	0.3
皮膚科	63	7.2	産婦人科	27	3.1
アレルギー科	31	3.5	産科	6	0.7
リウマチ科	36	4.1	婦人科	12	1.4
感染症内科	6	0.7	リハビリテーション科	89	10.2
小児科	143	16.4	放射線科	17	1.9
精神科	35	4.0	麻酔科	12	1.4
心療内科	32	3.7	病理診断科	0	-
外科	107	12.2	臨床検査科	0	-
呼吸器外科	1	0.1	救急科	0	-
心臓血管外科	1	0.1	歯科	9	1.0
乳腺外科	3	0.3	矯正歯科	2	0.2
気管食道外科	2	0.2	小児歯科	1	0.1
消化器外科(胃腸外科)	22	2.5	歯科口腔外科	0	0.0

資料：「H26 医療施設調査」（厚生労働省）

### （3） 歯科診療所

平成28年医療施設調査(厚生労働省)によると、本県の歯科診療所数は481施設で、人口10万対では41.8施設と全国平均の54.3施設を下回っている。

また、平成26年医療施設調査(厚生労働省)によると、主な診療科目(重複計上)は、歯科が482施設(歯科診療所総数の98.8%)となっており、次いで小児歯科248施設(同50.8%)、矯正歯科140施設(同28.7%)となっている。

表 歯科診療所の施設数の年次推移

区分		実数	人口10万対	全国(人口10万)
平成 23		493	42.3	53.3
24		495	42.6	53.7
25		493	42.5	54.0
26		488	42.2	54.0
27		487	42.2	54.1
28		481	41.8	54.3
圏域別 平成28年	南加賀	84	36.7	
	石川中央	306	42.0	
	能登中部	62	49.1	
	能登北部	29	43.5	

資料：「医療施設調査」（厚生労働省）

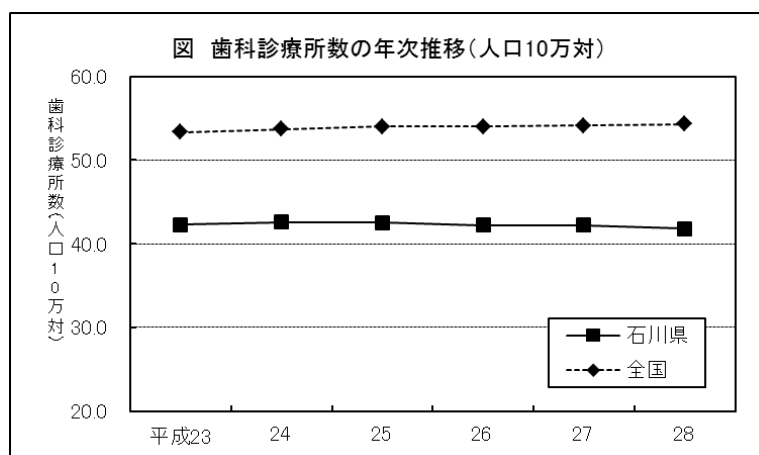


表 歯科診療所の主な診療科目別施設数と施設総数に対する割合(重複計上)

(H26.10.1)

歯科診療所	全県	
	施設数	割合(%)
歯科診療所総数	488	100.0
歯科	482	98.8
矯正歯科	140	28.7
小児歯科	248	50.8
歯科口腔外科	125	25.6

資料：「H26医療施設調査」（厚生労働省）

### （4） 薬局

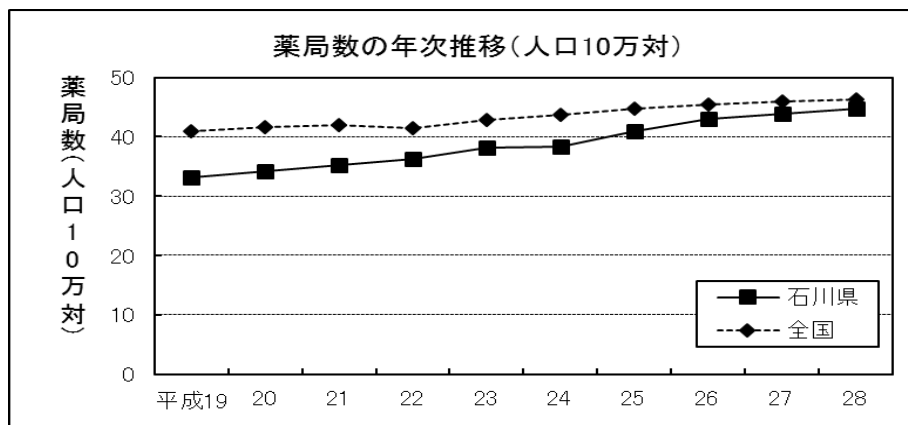
平成28年度衛生行政報告例(厚生労働省)等によると、本県の薬局数は514施設で、人口10万人対の施設数は44.7施設であり、全国平均(46.2施設)を下回っている。

表 薬局数の年次推移

区分		実数	人口10万対	全国(人口10万)
平成19年度		388	33.2	41.1
20		400	34.2	41.7
21		411	35.2	42.1
22		423	36.3	41.4
23		445	38.2	42.9
24		445	38.3	43.8
25		475	41	44.8
26		497	43	45.4
27		506	43.9	45.9
28		514	44.7	46.2
圏域別	平成28年度	南加賀	102	44.6
		石川中央	327	44.8
		能登中部	54	42.7
		能登北部	31	46.5

資料：「衛生行政報告例」(厚生労働省)

(注) 人口10万対算出のための基礎人口は、各年10月1日現在の都道府県別推計人口(総務省統計局)及び石川県の人口動態(石川県統計情報室)を用いた。(国勢調査の年は、その結果を使用)



(5) 訪問看護ステーション

平成28年介護サービス施設・事業所調査(厚生労働省)によると、本県の訪問看護ステーションの数(休止中を除く)は82施設で、高齢者人口10万人あたり施設数は25.4であり、全国平均の25.2とほぼ同様の数値となっている。

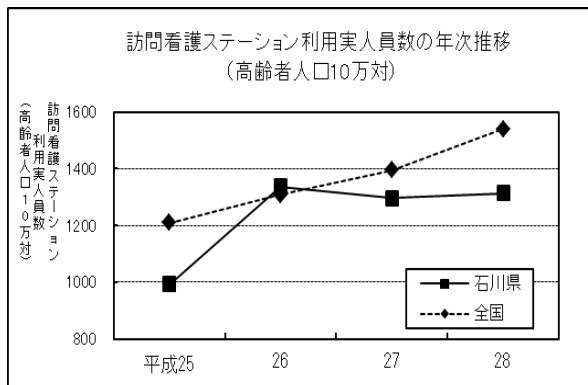
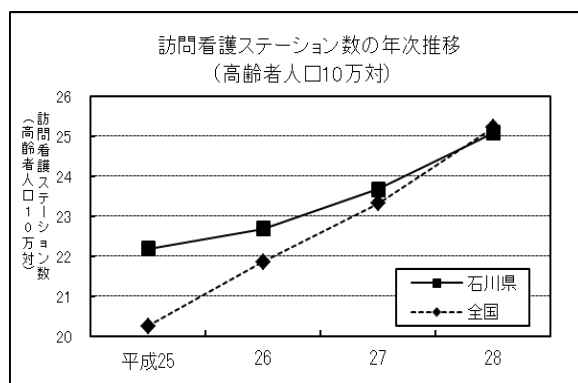
訪問看護ステーションを利用している実人員数は4,294人で、高齢者人口10万人当たり利用者数は1331.8人であり、全国平均の1540.5人を下回っている。

表 訪問看護ステーション数及び利用実人員の年次推移

区分	実数		高齢者人口10万対		全国(高齢者人口10万対)	
	施設数	利用実人員数	施設数	利用実人員数	施設数	利用実人員数
平成25	67	2,996	22.3	998.7	20.2	1,210.0
26	71	4,186	22.8	1346.1	21.9	1,307.8
27	76	4,162	24.0	1312.3	23.6	1,412.4
28	82	4,294	25.4	1313.8	25.2	1,540.5

資料：「介護サービス施設・事業所調査」(厚生労働省)

(注) 高齢者人口10万対算出のための基礎人口は、各年10月1日現在の都道府県別推計人口(総務省統計局)及び石川県の人口動態(石川県統計情報室)の年齢階層別人口を用いた。(国勢調査の年は、その結果を使用)



資料：「介護サービス施設・事業所調査」(厚生労働省)

### (6) 介護老人保健施設

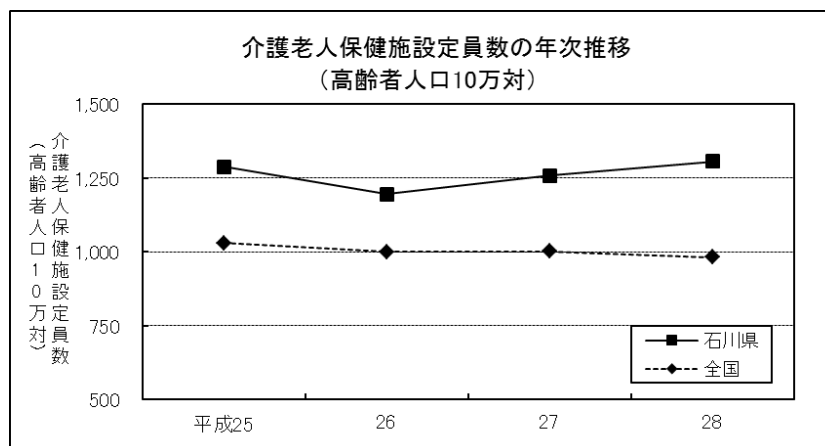
平成28年介護サービス施設・事業所調査(厚生労働省)によると、本県の介護老人保健施設数は47施設で、高齢者人口10万人対の定員数は1,307.3であり、全国平均の982.6を上回っている。

表 介護老人保健施設の施設及び定員数の年次推移

区分	実数		高齢者人口10万対		全国(高齢者人口10万対)		
	施設数	定員数	施設数	定員数	施設数	定員数	
平成 25	41	3,893	13.7	1,299.7	11.5	1,030.3	
26	39	3,721	12.5	1,196.5	11.3	1,001.0	
27	44	4,041	13.9	1,274.2	11.5	1,013.4	
28	47	4,215	14.6	1,307.3	11.3	982.6	
圏域別	平成28年	南加賀	14	1,139	21.4	1,742.3	
		石川中央	19	1,966	10.5	1,089.9	
		能登中部	9	707	19.5	1,530.0	
		能登北部	5	403	16.4	1,323.6	

資料：「介護サービス施設・事業所調査」(厚生労働省)

(注) 高齢者人口10万対算出のための基礎人口は、各年10月1日現在の都道府県別推計人口(総務省統計局)及び石川県の人口動態(石川県統計情報室)の年齢階層別人口を用いた。(国勢調査の年は、その結果を使用)



(7) 助産所

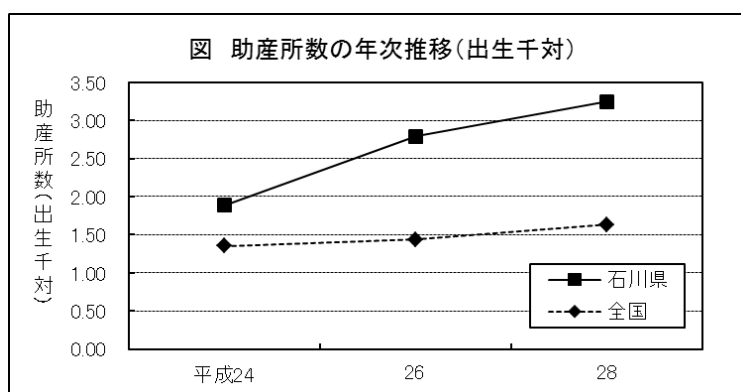
平成28年度衛生行政報告例(厚生労働省)では、本県の助産所数は29施設で、出生数千人対の施設は3.25施設であり、全国平均の1.63施設を上回っている。

表 助産所数の年次推移

区分	実数	出生千対	全国(出生千対)
	施設数	施設数	施設数
平成24	18	1.89	1.35
26	25	2.79	1.43
28	29	3.25	1.63

資料：「衛生行政報告例」(厚生労働省)

(注1) 施設数(実数)は助産師業務届による業務に従事する場所の助産所(開設者+出張のみによる)数  
 (注2) 出生千対算出のための出生数は、各年の人口動態統計(厚生労働省)による出生数を用いた。



6 医療費の状況

(1) 医療費の状況

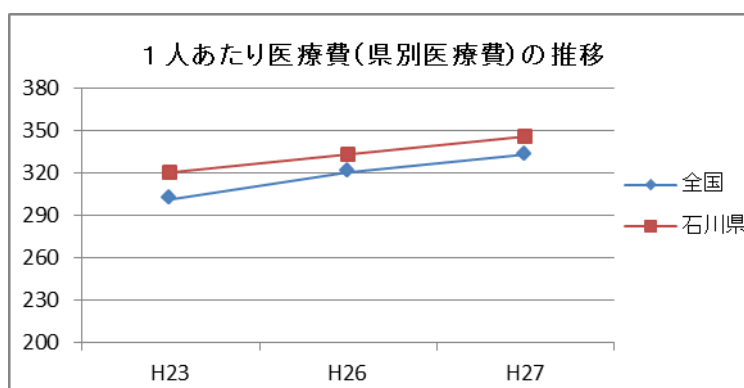
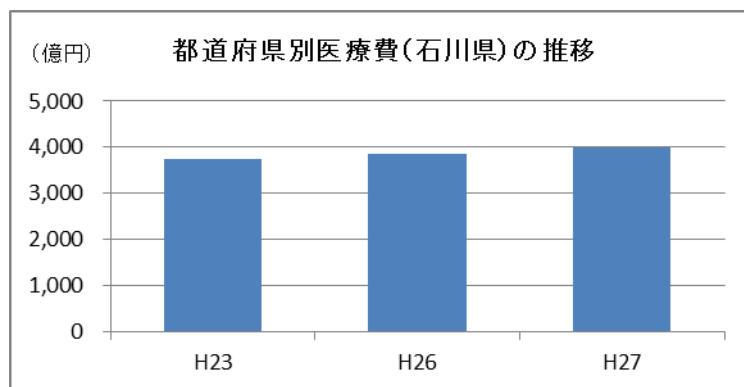
① 県別医療費

平成27年度の本県の医療費総額(国民医療費の都道府県別医療費。H26年度までは3年ごとに公表)は3,993億円となっており、平成23年度と比べ255億円、6.8%の増加となっている。1人あたり医療費をみると、平成27年度は346,000円となっており、平成23年度と比べ25,400円、7.9%の増加となっている。1人あたり医療費を都道府県間で比較すると全国21位となっており、全国平均(333,300円)と比べて高い状況にある。

表 医療費の推移

	平成23年度	平成26年度	平成27年度
国民医療費(全国)	38兆5,850億円	40兆8,071億円	42兆3,644億円
1人あたり国民医療費	301,900円	321,100円	333,300円
都道府県別医療費(石川県)	3,738億円	3,854億円	3,993億円
1人あたり都道府県別医療費(順位)	320,600円 (20位)	333,400円 (21位)	346,000円 (21位)

資料：「国民医療費(都道府県別医療費)」(厚生労働省)



## ② 後期高齢者医療費

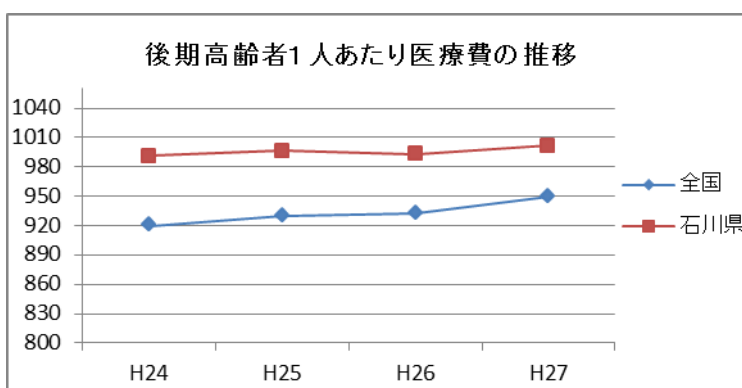
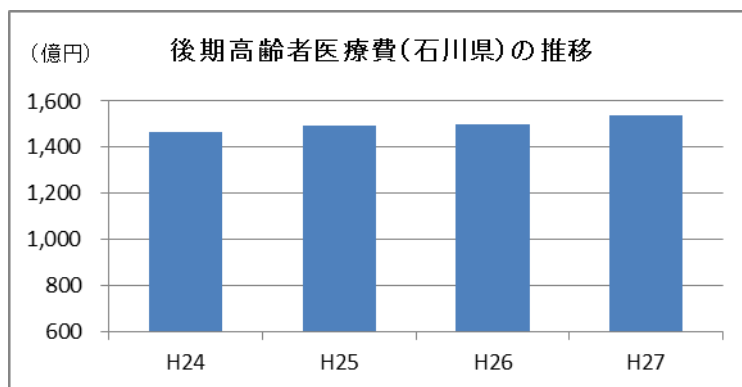
平成27年度の本県の後期高齢者医療費は1,540億円となっており、平成24年度と比べて75億円、5.1%の増加となっている。また、後期高齢者医療費は本県の医療費総額(3,993億円)の38.6%を占めており、全国平均(35.7%)と比較して後期高齢者医療費の占める割合が高くなっている。今後、高齢者人口は増加が見込まれており、これに伴って、後期高齢者医療費についても高い伸びとなることが予測される。

後期高齢者1人あたり医療費をみると、平成27年度は1,001,996円となっており、平成24年度と比べ10,799円、1.1%の増加となっている。都道府県間で比較すると全国16位で、全国平均(949,070円)と比べて高い状況にある。

表 後期高齢者医療費の推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
後期高齢者医療費(全国)	13兆7,044億円	14兆1,912億円	14兆4,927億円	15兆1,323億円
後期高齢者医療費の割合(%)	34.9%	35.4%	35.5%	35.7%
1人あたり後期高齢者医療費	919,452円	929,573円	932,290円	949,070円
後期高齢者医療費(石川県)	1,465億円	1,494億円	1,502億円	1,540億円
後期高齢者医療費の割合(%)	—	—	39.0%	38.6%
1人あたり後期高齢者医療費(順位)	991,197円 (13位)	996,667円 (14位)	993,186円 (15位)	1,001,996円 (16位)

資料：「後期高齢者医療事業状況報告」(厚生労働省)



## (2) 医療費の見通し

本県における平成35年度の医療費の見通しについては、国が示した全国一律の推計方法により、特定健診・特定保健指導の推進など、27ページに記載した医療費適正化の推進に向けた取組(※1)を実施し、それらの目標(※2)を達成した場合(B)には4,457億円となり、こうした効果を見込まない場合に比べ、44億円の医療費の抑制効果があると予測される。

表 医療費の見通し

区分	推計医療費
平成29年度	4,048億円
平成35年度 (適正化前) (A)	4,501億円
平成35年度 (適正化の取組により目標を達成した場合) (B)	4,457億円
医療費適正化の効果 (A-B)	44億円

(都道府県医療費の将来推計ツール Ver. 3.02 (厚生労働省) により推計)



## ※1 医療費適正化の推進に向けた取組

## ①特定健診・特定保健指導の推進

特定健診・特定保健指導が適切かつ効果的に実施されるよう、保険者協議会等と連携し、健診受診率の向上に努めるとともに、従事者研修会の開催や、効果的事例の収集・情報発信など、その支援を行う。

## ②データヘルスの推進

県は保険者協議会と連携し、研修会等の開催や情報の提供、助言を行うなど、各医療保険者が保健事業をP D C Aサイクルに沿って効果的に実施することができるよう支援する。

## ③後発医薬品の使用促進

県は、「石川県後発医薬品使用促進協議会」において、後発医薬品の使用割合についての情報共有及び後発医薬品の普及に関する取組等を実施する。

## ④適正投薬の推進

薬の飲み忘れによる残薬や、複数の医療機関から同種の薬が処方される重複投薬が問題となっていることから、県では、県薬剤師会と協力し、「しっかり服薬推進事業」や「かかりつけ薬剤師推進事業」を実施し、適正な投薬の推進を図る。

## ⑤重複受診等にかかる指導の充実

市町においては、国保連合会から提供される重複多受診者一覧表をもとに、重複受診者や頻回受診者に対し、保健師等が受診内容を分析し、主治医と連携を図りながら訪問指導の取組を進めている。

県では、先行事例を収集して市町へ情報提供を行い、全ての市町で訪問指導が実施できるよう支援を行う。

## ⑥糖尿病性腎症の重症化予防の取組

糖尿病の未治療者や治療中断者を治療に結びつけるとともに、ハイリスク者の腎不全、人工透析への移行を防止するため、医療保険者や医師会等と連携し、「いしかわ糖尿病性腎症重症化予防プログラム」の活用を推進するとともに、地域の実情に応じた取組を支援する。

## ※2 医療費適正化の推進に向けた目標（平成35年度）

- ・ 特定健康診査の実施率 70%、特定保健指導の実施率 45%
- ・ 後発医薬品の使用割合 80%
- ・ 3医療機関以上の重複投薬となっている患者の2医療機関を超える調剤費及び65歳以上の高齢者における15剤以上の調剤費 半減
- ・ 糖尿病の40歳以上の一人あたり医療費 1.1%縮減

注 医療費の見通しの算出にあたっては、国が示した推計方法に従い、平成26年度の推計医療費である3,805億円を基準として用いている。一方、平成26年度の本県の医療費総額は3,854億円であり、算定に用いた推計医療費を上回っている。従って、平成35年度の医療費の見込みは実績ベースよりも過小に推計していることに留意する必要がある。

## 第2章 地域の概況